

お釈迦さまのお誕生日をお祝いする行事を「はなまつり」といいます。

お釈迦さまの教えである仏教が日本に伝わってから、お釈迦さまのお誕生日である4月8日をお祝いする行事が行われるようになりました。今では「はなまつり」といわれているこの行事は、飛鳥時代から行われ、平安時代の始めには天皇や皇族の方がたによって、鎌倉時代でも行われています。親鸞さまのおられた鎌倉時代も、はなまつりの儀式は行われていたに違いありません。

お釈迦さまが誕生されたとき、空から龍がやって来て、よい香りのするお湯を身体にそそぎかけたというお話が伝わっています。このことから、江戸時代になって子ども姿のお釈迦さまの像に甘茶をかける儀式が行われるようになりました。はなまつりのことを灌仏会（仏さまに香水を灌ぐ）や龍華会というのはこのお話によるのです。

みなさんは、子ども姿のお釈迦さまのかわいいお仏像に甘茶をかけられましたか？右手を上にはじめ、左手を下にさげておられるお姿は、「人びとの苦しみをすくいたい」というお釈迦さまの強い願いを表しています。

す。今
お釈迦
に、こ
イン
さま
行を
しんじつ
真実
さま
わ
り

はなまつり hanamatsuri





はなまつり (釈尊降誕会)

4月8日は「はなまつり」。お釈迦さまのお誕生日です。

お釈迦さまがカピラ国の王子（ゴータマ・シッタッタ）であった頃

の悩みがお経の言葉として残されています。

「私は裕福で多くの物にめぐまれていたけれども、次のような思い
 を持った。何も知らない人は、自ら老いてゆく身であり、老いをのが
 れられないものであるのに、他人が老いたのを見て、悩み、恥じ、
 嫌ってしまう。でも、自分のことを考えてみると、私もまた年老いて
 ゆく身であり、老いをのがれないのに、他人が老衰したのを見て、
 悩み、恥じ、嫌うのなら、これは私にとってふさわしくないであろう」

（「中阿含経」117「柔軟経」より）

お釈迦さま
 がってしま
 見つめられ
 そして「
 ことを悟
 お念仏す
 親鸞さ
 るために

お念
 お生
 「南
 ほめ
 よろ
 せ、

わたくし
 私
 ナ

はなまつり



本願寺



はなまつり

お釈迦さまは今から約2500年ほど昔、インドの国でお生まれになりました。お父さんの名前はスッドーナ、お母さんの名前をマーヤーといいます。誕生された日は4月8日と伝えられています。「はなまつり」はお釈迦さまのお誕生をお祝いする行事です。

お釈迦さまはお母さんの右脇からお生まれになったといわれています。また生まれるとすぐに東や西、また南や北にそれぞれ七歩歩まれ、しかも生まれてすぐに「天上天下 唯我独尊（天にも地にも私一人が最も尊い存在である）」と言われたと伝えられています。

お釈迦さまが私たちと違ってどんなに偉い方であったとしても、こんなお話すぐには信じられませんよね。ふつう、赤ちゃんは、お母さんのお腹から生まれてきますし、すぐに立ち上がって歩きだすなんてとてもありえないことです。顔を真っ赤にして「おぎゃー、

おぎゃー
います。
この
お釈迦
たちに

お
もの
物に
し
ふ
不
そ
の
す
で

はなまつり



はなまつり～ブルーメンフェスト～

4月8日はお釈迦さまのお誕生日。この日は日本全国で「はなまつり」といって仏教の宗派を問わずにお祝いをします。でも、ちょっと考えると、この「はなまつり」という名前は少し不思議な気がしますね。「おまつり」はもともと、神さまを拝んでいろいろなことをお願いしたり祈ったりする儀式のことで、仏さまにお参りするときにはあまり使いませんし、どうしてお誕生日が「はな」のお祝いなんでしょう。もともと「灌仏会」などの名前でお参りをしていたのに、なぜ「はなまつり」というようになったのでしょうか？ 実はこの「はなまつり」という名前、日本でできたものではないようです。

明治時代になるとたくさんの西洋文明が日本に入ってきました。一方、日本の文化も西洋に紹介されるようになり、とくにドイツでは親鸞さまのお念仏の教えこそ本当だと思う人びとが集うようになっていました。そのようななか、明治34年にドイツに留学していた浄土真宗のお坊さんが学生たちといっしょに、4月にベルリンのホテルでお釈迦さまのお誕生日をお祝いして、金屏風の前に誕生した姿のお釈迦さまの像を置き、そのまわりを花でいっぱい飾ったそうです。それを見たドイツの人びとは口々に「ブルーメンフェスト！ブルーメンフェスト！」といって、みんなでお釈迦さまのお誕生をよろこんだといいます。ドイツ語のブルーメンは「花」、フェストは「おまつり」の意味ですから、日本語でいうと「はなまつり」ですね。このことを日本に伝えたところ、



★みなさんは、4月8日は何の日か知っていますか？

そう、お釈迦さまのお誕生日で、それをお祝いする行事を「はなまつり」といいます。お釈迦さまという方は、いまから2500年くらい前に、インドの国でお生まれになりました。

★どうしてお釈迦さまのお誕生をお祝いするのでしょう？

それは、お釈迦さまが、人間の苦しみや悩みの原因を考え、人びとがその苦しみや悩みをのりこえて、安らかに生きてゆける方法を見だし、たくさんの人びとにその教えを説いてひろめられた方だからです。その教えは世界中にひろまり、2500年もの長い間伝えられ、いま私たちにも届けられています。

★お釈迦さまって、どんな方だったのでしょうかね。

お釈迦さまは、お城の王子さまとしてお生まれになったのですが、青年になったとき「どうしていろいろな苦しみがおきるのだろう」と悩まれ、王子さ

まの位を
く
苦し
ブッ
れま
くの
ぎの
なか
中
う
も

はなまつり



4月8日は、今からおよそ2,500年前、現在のインドとネパールの国境近くで、お釈迦さまがお生まれになった日と伝えられています。

ご誕生より1,000年ほど過ぎた頃、中国のお坊さんがたくさん、お釈迦さまの教えを求めてインドに向かいました。そして、インドを訪れたお坊さんの中には旅行記を書いた人がいました。その旅行記の中に、次のようなお話が出てきます。

インドに、雀離の塔（雀離浮図）と呼ばれる塔があったそうです。雀離というのは、スズメ（雀）が人の手を離れて空に舞う、という意味です。なぜそのようなお名前になったのでしょうか。

お釈迦さまのお名前が知られるようになり、お釈迦さまを人生の師として慕う人が増えてくると、それをねたんで、お釈迦さまの評判を落とそうと考える人が現れました。

ある人が、お釈迦さまの信用を失わせるための計略を思いつきました。後ろにまわした手の中に生きたスズメを隠し、お釈迦さまに尋ねたのです。

「お釈
か、死

